

平成26年度入試【推薦入試Ⅰ】

【小論文】

(法文学部 言語文化学科)

注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は4ページである。解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚である。
指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところへ記入すること。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙、下書き用紙は持ち帰ること。

- 1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(阿満利磨『人はなぜ宗教を必要とするのか』による。一部改変)

(注) 自然宗教：自然発生的な原始宗教や民族宗教

創唱宗教：ある人物やグループが創唱者となって作られた宗教

問1 下線部について、筆者はここでの議論のどのような「様相」をあらわすために「鶏と卵の様相を呈してきました」という表現を用いているか、本文に即して説明しなさい。

問2 筆者は、「死ねば無になる」という考えが、現代の時代風潮の中で多くの人々に受け入れられるに至ったと考えている。では、そうなったのはなぜだと筆者は考えているか、本文に即して説明しなさい。

2 次を示す文章は、音声による言語表現（「声の文化」「耳の文化」）と、文字による言語表現（「目の文化」）が異質なものであるという考え方に対して、両者が交わって新しい表現が生じることを指摘した文章である。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(松岡正剛「声のコミュニケーション・文字のコミュニケーション」による。一部改変)

(注) タイプフェイス：活字の書体。ここでは、文字の視覚的な形状のこと。

エディトリアル・リエゾン：ここでは、音声の類似する語を並べて配置すること。

ボーカリゼーション：発音，発声。

問1 下線部について、筆者が「耳の文化」と「目の文化」の交わりから生まれた新しいコミュニケーションの例として『愛の言霊』を紹介しているのは、この歌がどのような特徴を有しているからか、本文に即して説明しなさい。

問2 ここで挙げられている事例の多くには漢字が深く関わっており、このような日本語表現における漢字の重要性から、日本語には漢字が必要であるという意見が主張されることがある。一方でさまざまな理由から日本語に漢字は不要であるという意見もあるが、あなたはどのように考えるか、根拠を挙げて述べなさい。